

学校運営協議会会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 加納高等学校 学校運営協議会（ゆめ会議かのう）（第1回）
- 2 開催日時 令和6年 6月 7日（金） 10：30～12：30
- 3 開催場所 加納高等学校 校長室
- 4 参加者 会長 高橋 利行 池田町教育長
副会長 富樫 幸一 岐阜大学名誉教授
委員 嘉根 礼子 サラマンカホール支配人
小島 紀夫 （公財）岐阜県教育文化財団総合プロデューサー兼支配人
杉本 昭一 アデコ株式会社ソリューションセールス事業部マネージャー
平木 一弘 加納西自治会連合会代表
水野 律子 加納まちづくり会会長
和智 陽子 PTA 副会長

学校側	高橋 宗彦	校長
	向田 富紀子	教頭
	衣斐 恵美子	事務部長
	藤田 英博	ゆめ加納企画局長
	西川 かおり	教務部担当

5 会議の概要

(1) 加納高校の現状の報告

(2) 学校運営・「スクール・ミッション」の策定について（協議事項）

意見1：音楽科・美術科があることを、加納高校の魅力としてもっと生かしていくことが社会的役割としても求められているのではないかと。

意見2：「主体的に学習に取り組む力を身につけさせる」と記載されている部分は教員の仕事であって、ポリシーに入れるものではないのではないかと。スクール・ミッションには学習関係の項目ではないものを入れたほうがよい。

⇒スクール・ミッションとともにスクール・ポリシーについても検討を進める。

意見3：生徒が自由に「なぜ勉強するのか」ということに関して主体的に考えていけるようになるとうい。

意見4：加納高校は「個性や主体性を大切にしている」「音美科がある」という点をもっと前面に押し出したらどうか。「普通科は（学習面で）良くできる」「芸術科もある」というように学科ごとの魅力だけでなく、芸術科があるからこそ普通科も輝いている、というような一体感があるとよい。

意見5：色々なことがつながるデザイン思考ができ、高校生の可能性がより追求できるとよい。

意見6：音美科は専門性が高いことをもっとアピールしてもよい。普通科も専門的にはやらないが、美術・音楽が好きで専門科を併設している加納高校を選んできている生徒もいるのではないかと。普通科でも専門科の授業を受けられるようになったら、3科

がある魅力につながるのでは。

⇒カリキュラムの見直しにより、生徒がやりたいことをやりたいように学べる高校にしていきたい。

意見7：生徒の主体性を伸ばして欲しいが、主体的にさせようと思えば思うほど、大人側の負担が重くなってしまう。いかに生徒たちに、生徒自身がやったのだと実感させられるかが重要である。できる限り生徒の活動を生徒のペースで行えるように大人のサポートが必要になる。

意見8：近年社会での女性の活躍の場が増えている。女性のキャリアがどう形成されていくのかというところで、女子の生徒が多い加納高校を生かせる部分があるのではないか。

意見9：加納高校は地元に住む者からすればすばらしい学校。マナーなども含めて、「加納高校の生徒ってすごいよね」と言われるような学校にして欲しい。

⇒定期的に繰り返し注意喚起に努める

意見10：スクール・ポリシーに「どんな生徒を待っているか」という記載があるが、生徒は高校3年間の中で大きく変わっていく、ということを念頭に置いていくべきではないか。今の時点でこの生徒像でない生徒でも受け入れて待っていてほしい。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会での意見を踏まえて、学校でスクール・ミッション（案）を作成し、第2回学校運営協議会でスクールミッション（案）を提出して、修正をはかる。